

平成 21 年 5 月 26 日現在

研究種目：基盤研究(A)

研究期間：2006～2008

課題番号：18202020

研究課題名（和文） 織豊期主要人物の居所と行動に関する基礎的研究

研究課題名（英文） The Study onWhereabouts of Major Figures in the late 16th Centu

研究代表者

藤井 讓治(FUJII JOJII)

京都大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号：40093306

研究成果の概要：本研究は、織豊期の主要人物、織田信長・豊臣秀吉・豊臣秀次・徳川家康・足利義昭・柴田勝家・丹羽長秀・明智光秀・細川藤孝・前田利家・毛利輝元・上杉景勝・伊達政宗・石田三成・浅野長政・福島正則・片桐且元・近衛前久・近衛信尹・西笑承兌・大政所・浅井茶々・孝蔵主について、その居所と行動を、当時の日記と厩大に残されている多くは無年紀の書状をもちいて確定したものである。その成果は、この期の政治史・文化史研究の基礎研究として大きな意味をもつ。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	5,600,000	1,680,000	7,280,000
2007年度	4,700,000	1,410,000	6,110,000
2008年度	5,500,000	1,650,000	7,150,000
年度			
年度			
総計	15,800,000	4,740,000	20,540,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：織豊期 居所 織田信長 豊臣秀吉 近衛前久

## 1. 研究開始当初の背景

人物の居所を明らかにすることは、個々の研究者が、その時々分析にあたって日常的に行ってきたことである。しかし、こうした作業は、個々別々に、また特定の人物、特定の時期に限ってなされるに過ぎず、その成果も十分なものとはいえない。こうした作業を、複数の人物を取り上げ、それを集団で行うことにより、的確かつ効率的に明らかにすることが求められている。こうした研究としては、時期的限定があ治的主要人物の居所についての研究『近世前期政治的主要人物の居所と行動』（京都大学

人文科学研究所、1-316頁、1994年）があり、その成果は、その後多くの研究者に利用され、江戸初期の政治史研究に大きく寄与してきた。

## 2. 研究の目的

本研究は、織豊期に生きた主要人物の居所と行動を明らかにし、この時期の政治史だけでなく文化史研究の精度と水準を大きく高め、それに基づく新たな織豊期像の構築の基礎作りを目指したものである。

## 3. 研究の方法

織豊期の主要人物を、大きく、政権の中心人物（足利義昭・織田信長・豊臣秀吉）、政権中枢にいる人物（明智光秀・前田玄以・浅野長吉・石田三成等）、政権に大きな影響力を持った人物（柴田勝家・徳川家康・前田利家・毛利輝元等）、有力大名（上杉景勝・伊達政宗等）、有力武将（加藤清正・福島正則・黒田孝高等）、政権周辺の僧侶・文化人（千利休・西笑承兌等）、政権に関係深い公家衆（近衛前久・吉田兼見等）、政権に関わる女性たち（北政所・淀殿・孝蔵主等）に分け、その居所と行動を確定する。なかでもこの期の中心人物である豊臣秀吉については、時期を関白就任以前、関白時代、太閤時代に区分し、出来る限り詳細な居所を確定する。

この確定作業を、個人ではなく集団とすることで精度を高め効率的に進める事を目指した。さらに、この時期は、特定の人物の居所を確定するに最も有用である日記史料が、いく人かの公家を除いてはほとんど存在しておらず、他方、本研究で取り上げようとしている人物については、書状を中心に膨大な量の無年号文書が存在し、それら書状等の書き手、受け手、文中の人物の居所を通じて発給年を明らかにすることを通じて、居所を明らかにする手法をとった。

#### 4. 研究成果

本研究の根幹となる成果は、織豊期の主要人物の居所と行動を確定することにある。今回の取り組みで 24 名についておおよそ確定することができた。

とりあげた人物は、織田信長・豊臣秀吉・豊臣秀次・徳川家康・足利義昭・柴田勝家・丹羽長秀・明智光秀・細川藤孝・前田利家・毛利輝元・上杉景勝・伊達政宗・石田三成・浅野長政・福島正則・片桐且元・近衛前久・近衛信尹・西笑承兌・大政所・浅井茶々・孝蔵主である。

確定しえた内容は、史料の残存状況によって、人物によってかなり精粗がみられるが、基本的には一次史料をもとに、その居所・行動の確定を行った。その具体的成果は、『織豊期主要人物の居所と行動』として活字化するが、記載の形式は、人物の略歴をあげ、次に年ごとに、詳細が分かる場合には、その概要を先ずあげ、次に根拠となった史料をも示した詳細情報を掲げ、末尾に典拠史料注・参考文献をあげた。事例として天正 10 年以降の豊臣秀吉の居所と行動の一部を掲載し、末尾に全体の構成をあげておく。

#### 【事例】

豊臣秀吉の居所と行動(天正 10 年 6 月以降)  
藤井讓治

#### 【略歴】

秀吉は、天文 5 年(1537)あるいは天文 6 年 2 月 6 日、尾張愛智郡中村に生まれたとされる。生年については、桑田忠親氏が、天正 18 年(1590)12 月吉日の石通白杉本坊宛伊藤秀盛の願文に「関白様 西之御年 御年五十四歳」とあることから天文 6 年とされるが、北野社に慶長 2 年(1592)3 月 1 日に奉納された釣燈籠の銘には「御歳 [丙申] 為御祈祷也」とあり、天文 5 年の従来の説を根拠づけている。

信長に仕え、永禄 8 年以前に木下藤吉郎秀吉を名乗り、天正元年 7 月ころ信長から羽柴の姓を与えられる。天正 3 年には筑前守を名乗るが、朝廷からの諸大夫叙任がなされたものではないようである。

残された口宣案によれば、天正 10 年 10 月 3 日従五位左近衛権少将、11 年 5 月 22 日従四位下参議に叙任されているが、天正 12 年 11 月 21 日従三位大納言にあたって遡り叙任したものであり、朝廷の実質的位階は、大納言叙任が最初である。ついで天正 13 年 3 月 10 日従二位内大臣、7 月 11 日従一位関白に叙任された。天正 14 年 12 月 19 日太政大臣任官に際し「豊臣」姓を朝廷から与えられる。

天正 19 年 12 月 28 日に、関白職を秀次に譲り、以降「太閤」を通称とし、慶長 3 年 8 月 18 日に伏見城で死去する。

山崎の戦い後、山崎に城を築き畿内の拠点とするが、天正 11 年 5 月には、池田恒興より大坂を請取り本拠とし、そこに城郭を築いた。天正 14 年 2 月に京都内野に城郭を築くため縄打ちを行い、それを聚楽と名付け、翌年 9 月 13 日に移徙し、本城とした。関白を秀次に譲るにあたって、聚楽を秀次に渡し、みずからの居所を再び大坂城に定める。天正 20 年 8 月ころ伏見指月に隠居所として縄張りとなされ、翌年閏 9 月に移徙。次いで、秀頼の誕生を機に拡張工事がなされ、文禄 5 年には完成をみるが、同年閏 7 月 13 日の大地震で、ことごとく倒壊した。地震後、城地を伏見木幡山に移し再建に取りかかり、翌 2 年 5 月に秀頼とともに移徙した。また、同年 4 月に禁裏の東南に新城が計画され、9 月には一応の完成をみたようである。

この他、天正 11 年の賤ヶ岳の戦い後に坂本城を手にし、しばしばそこを訪れた。ついで同 15 年には、坂本城を廃し大津城を築いている。

天正 10 年 6 月以降

#### 【概要】

秀吉は、本能寺の変が起こった天正 10 年 6 月 2 日には備中高松に在陣し、5 日高松を発ち、7 日に姫路着、9 日姫路を発ち、13 日山崎で明智光秀を滅ぼし、同日京都、翌日は近江、その後美濃・尾張へ出陣、6 月 27 日清洲会議。7 月 9 日京都着。その後山城山崎を拠

点とし、京都・山崎間を行き来するほか、姫路・丹波亀山に出かけている。12月7日、美濃に向けて出陣、同月28日に京都に帰陣。

【詳細】

6月4日備中高松在(『当代記』同日条)、5日高松在(20日付下国愛季公宛秀吉書状「高松与申城江・・同五日迄対陣仕・・同七日ニ播州姫路之城へ打入、同九日より京都へ切上、十二日ニ城州於山崎表及一戦」秋田家文書)、5日野殿を経て沼着(5日付中川清秀宛秀吉書状「尚々の殿迄打入候之處御状披見申候今日成次第ぬま迄通申候」梅林寺文書)。6日姫路着(8日付松井康之宛杉藤七書状「去六日ニ至姫路秀吉馬被納候」松井家譜)、前掲愛季公宛書状では7日)、9日姫路発(20日付愛季公宛秀吉書状)、同日大明石、兵庫着(11日付宮部友閑宛秀吉書状「一昨九日至大明石令発足・・夜中ニ兵庫まで着陣候則尼崎迄打出候条」萩野由之氏所蔵文書)。10日淡路岩屋へ渡海を報じるが渡海せず(9日付広田内蔵丞宛秀吉書状「洲本城へ菅平右衛門入城之由注進候間只今午刻至大明石令着陣候明日渡海彼城取巻可責干候」広田文書)。9日付安宅信康宛秀吉書状「我々明日岩やまで先可令渡海覚悟候へハ」豊国社祠萩原文書)。11日尼崎着(18日付岡本次郎右衛門尉他1名宛秀吉書状「一日一夜に播州姫路へ打入候事(中略)夜昼なしに十一日之辰刻ニ尼崎迄令著陳」金井文書)。12日富田着(18日付岡本次郎右衛門尉他1名宛秀吉書状写「同十二日ニ・・富田ニ一夜陳相懸申候事」、14日付川田彦右衛門外1名宛秀吉書状「同十二日富田ニ一夜致在陣」松花堂所蔵古文書集)。13日山崎の戦い(18日付岡本次郎右衛門尉他1名宛秀吉書状写「其十三日之晩ニ山崎ニ陳取申候」。13日京都着(『言経卿記』同日3条「羽柴筑前守從播磨国上洛了、本国寺ニ被居了」。14日三井寺在(『兼見卿記』同日条「羽柴筑前守・・今日三井寺陣所也」。18日近江在陣(『多聞院日記』同日条)。23日ころ美濃在(同日付美濃立政寺宛秀吉禁制「立政寺文書」。27日清洲在(清洲會議)。28日津嶋、石たて、早尾を通り長浜に帰城着(28日付高木貞利宛秀吉書状「爰元隙明候条今日津嶋をとをり晩ニハ石たてはや尾ニ令着陣それより長浜帰城候」高木文書)。

7月3日4日長浜在(『兼見卿記』同日条、4日付稻勘右宛秀吉書状「至長浜帰城候」小川文書)。9日京都着(11日付鍋嶋信生宛秀吉書状「一昨日九日令上洛近日至播州姫路可帰城候」鍋嶋文書、ただし「蓮成院記録」同日条「於京都羽柴筑前守諸礼被請之間、從寺門モ可有御音信旨」、『多聞院日記』日条「今日城介殿若子三才羽柴筑前守御伴ニテ在京、諸大名衆礼在之云々」、さらに『兼見卿記』10日条には「今夕羽柴筑前守上洛云々、六条本国寺陣所也」とある)。11日京都在(『兼見

卿記』『言経卿記』同日条12日京都在(『多聞院日記』13日条)。13日播磨下向の噂あるも在京(『言経卿記』同日条)。17日在京(『兼見卿記』同日条)。19日在京(『兼見卿記』同日条)。20日山崎在(『兼見卿記』同日条「佐出(佐竹出羽守)筑州へ礼之儀相調、山崎へ下向対面之由」。24日京都発丹波亀山へ(『兼見卿記』同日条「羽柴筑州下向丹州亀山云々」)。

8月3日亀山より姫路着(4日付石彦宛秀吉書状「我等も昨日三日播州姫路迄令帰城候」今村文書)、8日付細川藤孝宛秀吉書状「丹州より直至姫路令帰候」細川文書)。11日近く山崎へ(11日付丹羽長秀宛秀吉書状「廳而山崎へ可罷越候間」専光寺文書)。19日京都在(『言経卿記』同日条)。

9月15日山崎在(『言経卿記』同日条)。17日京都着(『言経卿記』同日条「羽柴筑前守丹羽五郎左衛門尉已下上洛了」。18日から21日までは在京(『兼見卿記』『言経卿記』18日条、『兼見卿記』20日条、21日条)。24日山崎在(24日付森野惣七宛秀吉書状「其方女子共之事、我等山崎ニ在城候間」佐藤行信氏所蔵文書)。26日山崎在(『多聞院日記』25日条、27日条)。

10月1日姫路在(1日付羽柴秀長宛秀吉書状「廿九日之書状今日於姫路令披見候」伊予古文)49)。13日亀山を経て京都着(『兼見卿記』13日条「羽柴筑州至丹州亀山上洛云々」また『兼見卿記』14日条には「羽柴筑州至六条上洛云々」とある)。15日京都在(『兼見卿記』『言経卿記』『晴豊記』同日条)。同日山崎へ(『言経卿記』同日条「羽柴筑前守山崎城へ」)。

16日山崎在(『宇野主水日記』同日条)。19日山崎在(『兼見卿記』同日条)。23日山崎在(『多聞院日記』同日条)。27日京都着(『宇野主水日記』同日条「羽柴筑前守山崎ノ城より上洛」。28日京都在(『兼見卿記』「蓮成院記録」同日条)。29日京都在(『宇野主水日記』同日条)。

11月3日山崎着(『兼見卿記』同日条「羽柴筑州下向山崎云々」。10日京都在(『兼見卿記』同日条)。12日山崎在(『兼見卿記』同日条)。23日山崎在(『多聞院日記』同日条「順慶山崎今朝越了」)。

12月3日京都着(『兼見卿記』同日条「羽柴筑州上洛、三条伊藤宿所也」。4日京都在(『兼見卿記』同日条)。5日京都在(『兼見卿記』同日条)。7日京都発(『兼見卿記』同日条「羽柴筑州至江州出勢」。9日勢田、安土を経て11日佐和山着(18日付宇喜多秀家宛秀吉書状「一三介殿為御迎去九日令出張候路次中城々始勢田之城安土江州之内山崎ニ人数入置十一日ニ至佐和山令着城候事」小早川家文書)。13日佐和山在(『多聞院日記』同日条)。16日大垣着(18日付宇喜多秀家宛秀吉書状

「一昨日十六日濃州大垣之城へ我等令着城候」。28日京都着(『兼見卿記』27日条「今度濃州表出陣羽筑州・惟五郎左衛門帰陣云々、羽筑明日帰陣上洛之由申了」)。

天正11年

#### 【概要】

秀吉は、正月を山崎で迎えたようである。閏正月には丹波亀山、安土へ出向き、15日には上洛。2月から4月は、近江と北伊勢で軍事行動を展開し、21日賤ヶ岳の戦いで柴田勝家を破り、軍を越前に進め、28日に金沢城に入り、そこで馬を返し、5月11日に坂本に帰る。6月1日上洛。この直後、居城を山崎から大坂に移す。10日には播磨へ。28日ころまで姫路。その後大坂に戻り、7月は大坂、京都、坂本と居を移す。8月4日大津より大坂へ、19日から27日まで有馬在。9月10月は大坂在。24日は有馬在。11月はじめに亀山に行き6日大坂へ、8日に京都着。その後坂本に行き、12月は大坂に居、越年。

#### 【詳細】

1月2日山崎在(『多聞院日記』同日条「簡井ニハ山崎へ礼ニ被越了云々」)。閏1月4日丹波亀山より京都着(『兼見卿記』同日条「羽柴筑州至丹波亀山上洛了」)。12日カ安土へ(『多聞院日記』同日条「順慶法印從四日御本所(北畠信雄)所アツチへ被出付、為礼筑州同道」)。15日安土より京都着(『兼見卿記』同日条「羽柴筑前守自安土上洛了」)。16日京都在(『兼見卿記』同日条)。23日京都より山崎へ(『兼見卿記』同日条「羽筑山崎へ下向云々」)。

2月3日長浜へ(『兼見卿記』同日条「羽柴筑州至江州北郡永浜出陣云々」)。10日伊勢へ(17日付須田満親宛秀吉書状「去月十日勢州表秀吉令出張」須田文書)。12日峯城から桑名へ(17日付某宛秀吉書状写「此表之儀、去十二日峯城取巻、為陣取置候間桑名表へ相働外構迄不殘令放火」水月古鑑)。16日亀山着(17日付某宛秀吉書状写「十六日直ニ亀山ノ城へ押詰」)。

3月9日安堵着(10日付村上次郎左衛門宛秀吉書状「仍北伊勢表儀峯亀山・昨日致安堵打入候」秋田藩採集文書)。11日佐和山在(『兼見卿記』12日条「昨日十一日至佐和山之城羽筑州登城云々」)。同日安土へ(12日付加茂惣中宛秀吉書状「為御音信・勢州表之儀任存・至安土納馬候」『賀茂別雷神社文書』17日長浜より賤ヶ岳へ(17日付須田満親宛秀吉書状「秀吉北郡長浜城迄令出馬候・今日十七日しつか嶽と申山を取押寄候」須田文書)。27日佐和山より長浜着(27日付石川数正宛秀吉書状「去廿二日之御書今日廿七日申ノ下刻於江州長浜謹而致拜見候・佐和山江相移・翌日ニ長浜へ相移・今日長浜へ口者計にて打入、此表ニ令逗留長浜越州境目之

仕置等申付明隙候ハ、安土迄打入其より直ニ北伊勢へ御見廻可申候」長尾新五郎氏所蔵文書)。

4月3日江北在(3日付羽柴秀長宛秀吉書状「昨日未刻書状、今日辰刻到来披見候、如書中敵陣取・田引退可申候」市立長浜城歴史博物館所蔵文書)。12日柳瀬在(12日付小早川隆景宛秀吉書状「貴所御状今日十二日越州柳瀬と申所にて令拝閱候」萩藩閩閩録)。16日大垣着(20日付亀井茲矩宛秀吉書状「去十六日濃州至大柿相越候」亀井文書)。20日大垣在(20日付亀井茲矩宛秀吉書状「十一日御状今日濃州於大柿到来令披見候」)。21日賤ヶ岳・余呉在(24日付吉村氏吉宛秀吉書状「仍去廿一日於余呉表及一戦切崩」吉村文書)。22日越前府中着(24日付吉村氏吉宛秀吉書状「去廿二日越州至府中城令著陣候之處」)。23日越前北庄着(24日付吉村氏吉宛秀吉書状「柴田馬四五拾にて北庄へ逃入左候間昨日廿三日我々押詰天主之土居まで攻寄候」)。24日北庄在(7月29日付多賀谷重經宛秀吉書状「廿四日寅刻に本城へ取懸午之刻に本城へ乗入刎首候事」常総遺文)。25日加州へ(7月29日付多賀谷重經宛秀吉書状「廿五日加州江出馬候処」)。28日金沢城着(同日付国司元武宛秀吉書状「今日越中境目至金沢城相越候」西村文書)。29日金沢城在(同日付直江兼統他1名宛秀吉書状「至金沢城令逗留候」『歴代古案』)。

5月3日北庄着(同日付園城寺惣代宛秀吉書状「仍北国之儀悉平均申付候条今日越州北庄迄納馬申候」小川文書、同日付宗甫宛秀吉書状「今日越前国北庄打入候」小川文書)。5日長浜着(同日付宮部継潤宛秀吉書状写「今日至長浜打入候」『姫路城史』、6日付本徳寺宛秀吉書状「北国表儀明隙付而昨日至長浜納馬候」『黄薇古簡集』)。6日長浜在(『兼見卿記』同日条「筑州長浜ニ逗留之由申了」)。7日長浜在(『兼見卿記』同日条「午刻筑州対面」)。7日安土着(15日付小早川隆景宛秀吉書状「去七日ニ安土まで打入」『毛利家文書』)。11日坂本着(13日付仙石秀久宛秀吉書状「一昨日江州坂本城マテ打入候」伊予新宮田辺文書)。12日坂本在(『兼見卿記』同日条)。15日坂本在(同日付小早川隆景宛秀吉書状「筑前守ハ江州坂本ニ在之」『毛利家文書』)。27日坂本在(『華頂要略』同日条「(青蓮院尊朝法親王)五月廿七日下午向于江州坂本、渡御羽柴筑前守」)。28日坂本在(6月6日付某宛秀吉書状「去月廿一日御状同廿八日至江州坂本到来」永泉寺文書)。

6月1日京都着(『兼見卿記』同日条「筑州今日上洛・筑州此寺(相国寺慈照院)ニ逗留也」、『多聞院日記』同日条「2日京都在(『兼見卿記』同日条)」。3日山崎着(『兼見卿記』同日条「筑州三条之伊藤所へ行、午刻山崎へ下向」)。10日大坂在(『興福寺学侶集会引付

同日「今度筑州大坂表居住付、為使節浄順房被差越候」。10 日ころ播磨着(『宇野主水日記』7月4日条「筑州ハ六月十日比歟播州へ下向、下向ニ至テ帰路」)。28日姫路カ(7月1日付狩野秀治宛木村清久書状「河内国上使被申付、寸不得隙、姫地へ御供をも不申候」景勝公諸士来書)。

7月4日大坂在(『宇野主水日記』同日条)。5日大坂在(『多聞院日記』8日条)。8日大坂在(「今井宗久茶湯書拔」「七月七日於大坂御城筑州様御会」)。11日大坂在(『宇野主水日記』同日条「筑州、七月十一日俄頓病、堺円心ノ薬にて本復」)。20日京都着(『兼見卿記』21日条「昨夜筑州上洛、三条伊藤所ニ一宿」)。21日坂本へ(『兼見卿記』同日条「今朝未明坂本へ下向」)。24日坂本在(『兼見卿記』同日条)。

#### 【構成】

豊臣秀吉の居所と行動 (堀新・藤井讓治)  
豊臣秀次の居所と行動 (藤田恒春)  
徳川家康の居所と行動 (相田文三)  
足利義昭の居所と行動 (早島大祐)  
柴田勝家の居所と行動 (尾下成敏)  
丹羽長秀の居所と行動 (尾下成敏)  
明智光秀の居所と行動 (早島大祐)  
細川藤孝の居所と行動 (早島大祐)  
前田利家の居所と行動 (尾下成敏)  
毛利輝元の居所と行動 (穴井綾香)  
小早川隆景の居所と行動 (中野等)  
上杉景勝の居所と行動 (尾下成敏)  
伊達政宗の居所と行動 (福田千鶴)  
石田三成の居所と行動 (中野等)  
浅野長政の居所と行動 (相田文三)  
福島正則の居所と行動 (穴井綾香)  
片桐且元の居所と行動 (藤田恒春)  
近衛前久の居所と行動 (松澤克行)  
近衛信尹の居所と行動 (松澤克行)  
西笑承兌の居所と行動 (杉田善雄)  
大政所の居所と行動 (藤田恒春)  
浅井茶々の居所と行動 (福田千鶴)  
孝蔵主の居所と行動 (藤田恒春)

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕 (計 5件)

- ①早島大祐「応仁の乱への道」『中世都市研究』14 164-193頁 2008年 査読なし
- ②藤井讓治「大阪青山短期大学所蔵「梶又左衛門宛織田氏宿老連署状」をめぐって」『福井県文書館研究紀要』41-50頁 2008年 査読無
- ③杉田善雄「禁中並公家中諸法度〈座次規定〉と朝幕関係」『日本史研究』542 26-53頁 2007年 査読あり
- ④松澤克行「『天皇皇族実録の編纂事業につ

いて』『史境』53 1-15頁 2006年 査読あり

- ⑤堀新「朝尾直弘氏の将軍権力論をめぐって」『日本史研究』526 40-46頁 2006年 査読あり

〔学会発表〕 (計 1件)

- ①藤井讓治「『歴代古案』所収二月九日付上杉景勝宛秀吉条書と『出雲意宇六社文書』所収正月九日付羽柴秀吉書状をめぐって」2007年11月3日 読史会大会 於京都大学百周年記念館

〔図書〕 (計 4件)

- ①中野等『文禄・慶長の役』1-310頁 吉川弘文館 2008年
- ②藤井讓治『徳川將軍家領知宛行制の研究』1-393頁 思文閣出版 2008年
- ③堀新『「信長公記」を読む』(編著) 吉川弘文館 1-270頁 2008年
- ④福田千鶴『淀殿』ミネルヴァ書房 1-253頁 2006年

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

藤井 讓治(FUJII JOJII)  
京都大学・大学院文学研究科・教授  
遣空車番号: 40093306

##### (2) 研究分担者

杉田 善雄(SOMADA YOSHIO)  
大手前大学・人文科学部・助教授  
研究者番号: 20368442  
中野 等(NAKANO HITOSHI)  
九州大学・比較社会文化研究院・教授  
研究者番号: 10301350  
早島 大祐(HAYASHIMA DAISUKE)  
京都大学・大学院文学研究科・助教  
研究者番号: 10378490  
福田 千鶴(FUKUDA CHIZURU)  
九州産業大学・国際文化学部・教授  
研究者番号: 10260001  
堀 新(HORI SHIN)  
共立女子大学・文芸学部・准教授  
研究者番号: 80296524  
松澤 克行(MATUZAWA KATUYUKI)  
東京大学・史料編纂所・助教  
研究者番号: 40282529  
横田 冬彦(YOKOTA FUYUHIKO)  
京都橘大学・文学部・教授  
研究者番号: 70166883